

令和5年第6回定例会一般質問通告事項

12 月 6 日	前田孝人議員（潮風おのみち）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 いつまで続くのか平谷市長のハコモノ建設</p> <p>(1) 平谷市長の3年半先の任期満了までに予定のハコモノ建設は、統合小、中学校の校舎64億円、尾道市立大学図書館の18億円をはじめ把握しているだけでも8件あり事業費は130億円余にのぼる。人口減少による縮小社会の到来の中で、また大変厳しい尾道市の財政状況、見通しの中で建設費だけではなく、維持管理の後年負担が重くのしかかってくる。暴走とも思えるハコモノ建設ラッシュ。建設することが目的となっているのではないかと危惧するものだがどうか</p> <p>(2) もうハコモノ行政から脱却し亀田前市長が実践した「尾道のまちを雑巾がけする」とした市政に立ち返ってはどうか</p> <p>2 尾道市立大学の規模と財布に見合った大学図書館を</p> <p>(1) IT時代の到来で情報の電子化により大学図書館の在り方も大きく変わっている。それよりも卒業生300人のうち市内企業への就職は5人程だがその対策。大学の経営、財務などもっと優先する課題がある。この新築構想はコロナ化で厳しい生活を強いられている市民の理解を得ることはできない。現図書館を自己資金でリフォームしてもっとコンパクトでITを重視した図書館にすべきであるがどうか</p> <p>(2) 現図書館の利用は1,400人の学生のうち日々100人位の学生しか利用していない。当事者、利用者である学生は18億円、40万冊の大学図書館を本当に望んでいるのか。また本当に市民の利用があると思うのか。ここは一度立ち止まって大学の規模、財布に見合った施設にすべきである。建て替え新築では無く現図書館の改修、改築を強く求めるがどうか</p>	

12 月 6 日	<p>3 再編後の久保、長江、土堂の各小学校と長江中学校の活用</p> <p>(1) ここにきて学校の跡地活用が動き始めた。久保地区住民が跡地活用に動き出した。これに呼応し行政のトップ平谷市長も「地域のまちづくりに使いたい」と明言し、地元と協議を重ね早ければ来年度基本計画を策定したいと述べた。ただ学校の跡地というか校舎等の活用については、久保、長江、土堂地区の住民の皆様の意見を尊重することはもちろんの事だが、当該の3小、1中は尾道の中心市街地にあり、今後の中心市街地の賑わいの創出に向けたまちづくりを考えたときに非常に重要な位置にあると思う。そうした観点から跡地利用を考えることが重要である。もちろん観光客用の駐車場として活用するという話も必ず出てくる。順序としてまず尾道市として方向性を出すべきである。その中で地元要望をも含めて論議することが重要である。順番が違ってはならない。このことをどう思うか</p> <p>(2) 私はこの3小、1中の跡地について文化芸術を通じた中心市街地のまちづくりの拠点としての活用を考えている。久保小の校舎は歴史的にも、文化的にも価値のある建物で保存活用が各方面から注目されている。そこでこの校舎を耐震改修等リフォームして、まるごと尾道市の中央図書館として、また一部を久保地区の住民要望にある公民館としての活用を思っている。これらについて尾道市の見解はどうか</p> <p>(3) 土堂小学校についてはまず耐震改修し歴史的校舎を（仮）尾道文化芸術館として活用してはどうかと思っている。駅前から近いという立地また林芙美子や大林宣彦監督が通った学校である事を打ち出し、まず林芙美子を核として志賀直哉また尾道に関係のある文人・墨客の文学館として、尾道大学にある高橋玄洋記念室も移設する。一方大林宣彦監督を核として大林ワールドを紹介する。また「東京物語」をはじめ今まで尾道で撮影された映画の紹介など映画記念館として、また名誉市民の小林和作記念室など複合的な文化施設として活用してはと思っている。もちろん土堂地区の公民館としての活用も考えている。これらについて尾道市の見解はどうか</p>
-------------------	---